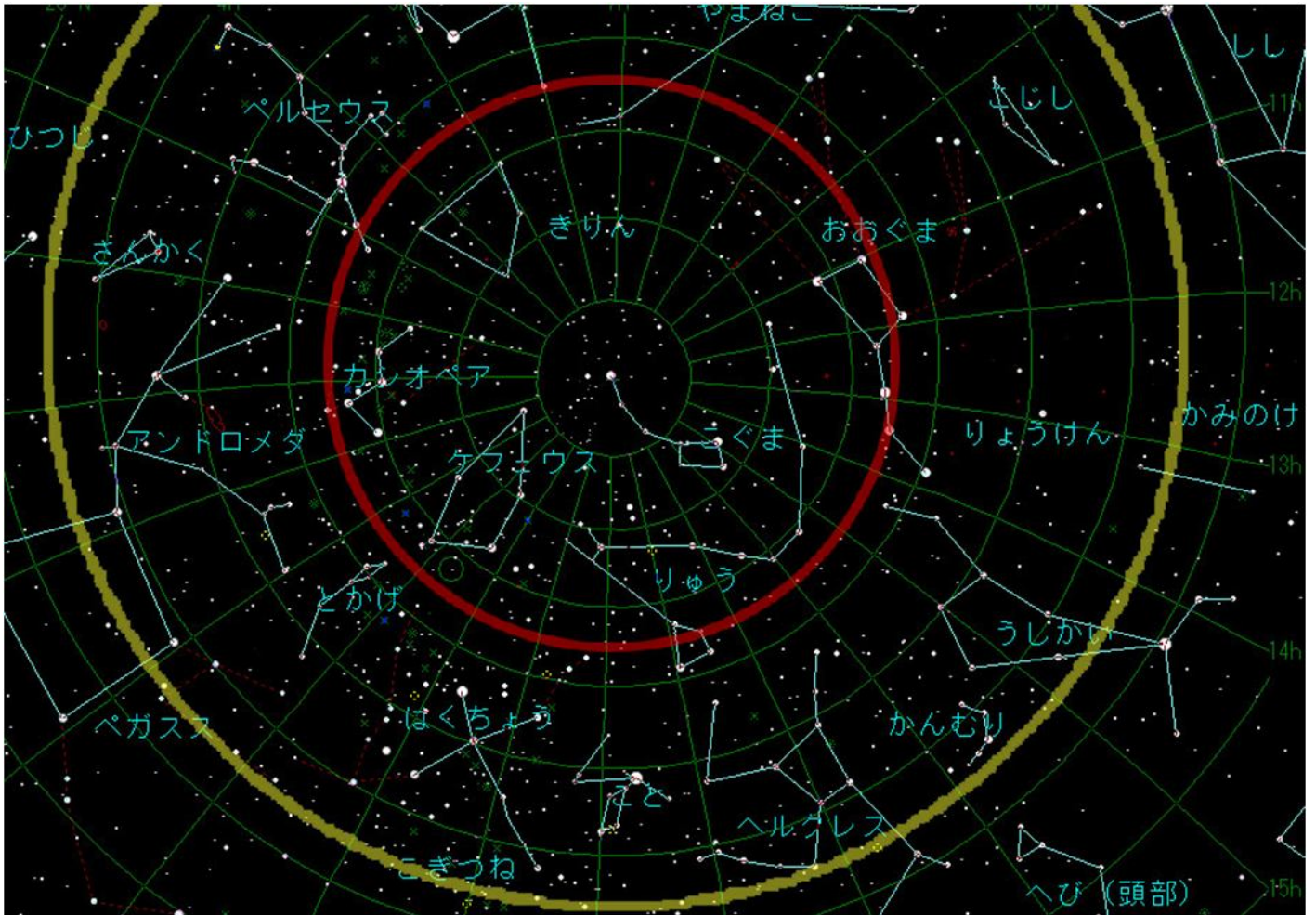


「明け方の白鳥座」

夏の星座を代表する一つの白鳥座は、首の長い白鳥の姿をよく表した、非常に形の美しい星座です。ほとんどの人が、夜空に白鳥の姿を描くことができると思います。白鳥座は天の赤道よりも北川にある星座なので、「南十字 (みなみじゅうじ座)」に対して「北十字」とも呼ばれています。天の北極(赤緯 90° N)に近い星座ほど地平線下に沈む時間が短く、関東地方(北緯 35°)では、赤緯 55° 以上の恒星は常に地平線上に見える「周極星」となります。



「天の北極を中心にした星図」

中心が天の北極(赤緯 90° N=ほぼ北極星の位置)です。赤い線が赤緯 55° Nで、関東地方では、この線よりも内側の星座・恒星は周極星となり、一年中地平線上に見えます。こぐま座、ケフェウス座、カシオペア座などが周極星です。この周極星限界線は、観測地の緯度が高いほど半径が大きくなります。ラップランド(北極圏)では黄色い線の内側が周極星となり、白鳥座やこと座も一年中沈みません。(作図; 田中 千尋)

白鳥座は日本では周極星にはなりません(正確に言うと、白鳥座のごく一部の星は周極星です。)オリオン座などに比べると天の北極に比較的近い星座なので、一年間を通じて一日のうち約16時間は地平線上にあります。それが夜間にあたれば観望可能なわけです。

今の時期（7月下旬～8月上旬）、白鳥座はほぼ一晩中見えています。明け方（午前3時前後）には、北西の空に、沈みかけた白鳥座を観望できます。頭を下にした、いつも見る白鳥座とはちょっとちがった姿です。是非早起きして、観望に挑戦してください。



「明け方の白鳥座」

頭を下にした、ちょっと変わった姿です。このあと夜明けになって消えますが、これらの星座は、右下に移動し、北の地平線に沈みます。 2014,-7,30 午前3:30 北軽井沢で撮影
(次ページに拡大写真を掲載しています。)

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)

